

教科・科目	数学・数学探究 γ	学年	3	教科書	なし
		単位数	4	副教材	数研出版「ベーシックスタイル数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編」 数研出版「30分プレテスト 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B」

学習目標	1・2年次に学習した数学ⅠAⅡBの復習も兼ねて問題演習を行い、より発展的な問題にも取り組むことで、数学的な見方や考え方を身につけ、知識と技能の習熟をはかり大学受験に備える			
学習方法	副教材およびその他の問題を使用し、次の3点を行う。 1. 十分な予習をし、授業中に確認テストを行い知識の定着を図る。 2. 十分な予習をし、自身で解いた問題の解法を発表することにより表現力を養う。 3. 定期的の実施する小テストや提出物等の課題にしっかり取り組む。			
学習評価				
	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	関心・意欲・態度	1・2年で学習した内容に関心を持ち、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象考察に活用しようとする。	
	b	数学的な見方や考え方	数学的活動を通して、それぞれの分野において、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	
	c	数学的な技能	それぞれの分野において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。	
	d	知識・理解	それぞれの分野における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
1学期	数学Ⅰ	20	数と式 2次関数 図形と計量 データの分析	家庭学習でCheckを課題として与え、授業では類題の問題演習・解説を行う。 数学Ⅰの全分野について基本公式の意味や全分野の相互のつながりを確認する。 公式利用のポイントを押さえる。	○			○	a.家庭学習を行い授業に臨み、意欲的に演習に取り組んでいる。 b.問題を分析し、様々なアプローチを考え、問題を解くことができる。 c.論述の中で、簡潔な計算・数式処理方法で正確に処理ができる。 d.問題に沿った定理・公式を判断し、活用できる。	レポート 確認テスト 観察 定期テスト
	数学A	28 48	場合の数と確率 図形の性質 整数の性質	家庭学習でCheckを課題として与え、授業では類題の問題演習・解説を行う。 数学Aの全分野について論理的な記述力を高めるため、添削など丁寧な指導を行う。 小テスト等を組み入れ、なるべく多くの分野の問題に取り組ませる。	○			○	a.家庭学習を行い授業に臨み、意欲的に演習に取り組んでいる。 b.問題を分析し、様々なアプローチを考え、問題を解くことができる。 c.論述の中で、簡潔な計算・数式処理方法で正確に処理ができる。 d.問題に沿った定理・公式を判断し、活用できる。	レポート 確認テスト 観察 定期テスト
2学期	数学Ⅱ	30	式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数・対数関数 微分法と積分法	家庭学習でCheck から精選して課題として与え、授業では残りの問題演習・解説を行う。 数学Ⅱで学んだ全分野について文章題などを通じて論理的な記述力を高める指導を行う。 解説を通して、問題の背景をわかりやすく説明し、数学的な興味関心や問題解決力を高める。	○	○		○	a.家庭学習を行い授業に臨み、意欲的に演習に取り組んでいる。 b.問題を分析し、様々なアプローチを考え、問題を解くことができる。 c.論述の中で、簡潔な計算・数式処理方法で正確に処理ができる。 d.問題に沿った定理・公式を判断し、活用できる。	レポート 確認テスト 観察 定期テスト
	数学B	26 56	ベクトル 数列	家庭学習でCheck から精選して課題として与え、授業では残りの問題演習・解説を行う。 数学Ⅱで学んだ全分野について文章題などを通じて論理的な記述力を高める指導を行う。 センター試験対策として過去問や予想問題を取り入れる。	○	○	○	○	a.家庭学習を行い授業に臨み、意欲的に演習に取り組んでいる。 b.問題を分析し、様々なアプローチを考え、問題を解くことができる。 c.論述の中で、簡潔な計算・数式処理方法で正確に処理ができる。 d.問題に沿った定理・公式を判断し、活用できる。	レポート 確認テスト 観察 定期テスト
3学期	総合演習	36	Ⅰ・Aのまとめ Ⅱ・Bのまとめ	1年間の総まとめとして、より発展的な課題に取り組み、上級学校に対応できる実力を養成する。また、全分野について分野横断的な問題に取り組むことで、数学的な視野を広げる。 一定時間内に課題に応じた的確な記述ができるかを確認する。	○	○		○	a.家庭学習を行い授業に臨み、意欲的に演習に取り組んでいる。 b.問題を分析し、様々なアプローチを考え、問題を解くことができる。 c.論述の中で、簡潔な計算・数式処理方法で正確に処理ができる。 d.問題に沿った定理・公式を判断し、活用できる。	レポート 確認テスト 観察 定期テスト
合計時数(50分授業)		140								